

立派を命じて居たので、一同は憤慨し、友愛會の應援を求め、行商隊の如く笑ひ東園久太郎即伊藤社長宅前に押寄せ示威運動を行つたが、その後行商隊は其会社から受けた商品を携へ、日々三組はに分れて行商し、その内一隊は伊藤社長宅前に重々止め行商する事とした。そして行商隊の實上けは、四割を罷工基金に六割を各自の所得としたが、折衝の炎帝の威を幌子に受けて、洋しまで賣少して得る處所が五拾錢内外ながら、互に激昂し、行商を續けてゐる有様は勿體ないよりも無い悲壯であつた。

行商隊が撤いたビラは左の如くである。

見よ！ 伊藤製鋼所重役の暴虐を

吾等の生存を意義あらしめる爲に七月一日要求書を吾等の就勤する伊藤製鋼所に提出しましたに頗冥なる當事者は吾等の要求を一顧もせず拒絶し、其上場を突然閉鎖し勝手な通告書を發して、吾等の糧の道を塞のみならず飽くなき彼等は工場寄宿舎の糧餉をも引上けて平和に合理的に進めるなれば解決すべき事件を残虐に治かも復仇的の様な此の態度、此の所爲に至つては識者は之れでも人間的行爲である云ひ得ませうや、喰うに食なく住むに家なきまで虐げられた吾等は、それでも陰忍して其交渉を續けやうこしましたが、彼伊藤一派に何等の誠意なきに至つては、唯、吾等をして彼等は利口而已を知る暴虐者である云叫けばざるを得ないのであります。然し敢然起

つた吾等はさうしても要求の貫徹、労働権の擁護の爲にはこの無理解な資本主が覺醒する迄は飽くまで戦はねばなりません、そこで吾等は持久策として今回行商隊を組織して江湖の理解ある御同情を得て、この戦を生き者たらしむべく期しました。

請ふ諸賢、奮つてこの行商隊商品の御購買を！

ごく無限の勢力を持てる兄弟よ、來つて吾等を援け！

伊藤製鋼所從業員一同

二十一日、機械労働組合は正式に之が應援を決議し、翌二十二日には、各支部に檄を飛し、午后七時頃神田駅前集合、集まる者四百余名、支部旗四旗を押立て阪神街道を手舟に押寄せ示威運動を行ひ、その際社宅に投石して障子硝子を破壊したが、爾來千舟青年團、消防手は専夜會社の爲め警戒する云々騒ぎであった。二十三日は西七箇支部及市岡支部川口支部聯合發會式を兼ね伊藤製鋼所糸錆演説會を天王寺公會堂に開會、西尾末廣、東忠綱氏等の出演を見た。斯くて持久戦をなす内、二十九日に至り會社は解雇手當を支給して罷業職工全體を減資した。減資職工の怨みは神崎川の流れと共に長く千舟に殘るであらう。

此の爭議中各方面より集つた同情金は次の如くである。